

接続検討申込書作成時のお願い（高圧について）

- ・ 接続検討の開始には接続検討料のご入金及びご提出いただいた資料に不備がないことが前提となります。
 - ・ 高圧のお申込みにあたっては、申込時の注意点を記載した「**申込み時における確認項目チェック表**」を必ずご確認ください、事業者さまにて事業者さまチェック欄を全てチェックいただいたもの（１部）を申込書と併せてご提出ください。
- ※「申込み時における確認項目チェック表」は申込書同様に当社ＨＰにてダウンロード可能です。
- ・ また、申込書の記載事項及び付属の提出書類に関して、至近で、よくある書類不備の事例を以下にご紹介いたしますので、ご参考のうえ、接続検討申込書の作成をお願いいたします。

＜参考＞ よくある書類不備の事例

●接続検討申込書本書の必要事項の記入漏れ・誤り

- ・ 様式２ 発電設備等の概要について
 - ５．受電地点における受電電力（送電系統への送電電力）の記載誤り
- ・ 様式３ 主要設備仕様（直流発電設備等）について
 - ２．昇圧用変圧器の（３）、（４）箇所が未記入、直流発電機の高周波箇所が未記入
 - ３．直流発電機 発電設備 発電設備合計・パネル内訳の未記載
- ・ 様式３ 発電設備仕様（逆変換装置）について
 - （１３）、（１９）が未記入
- ・ 様式３ 保護リレー等について
 - ＯＣＲ箇所の「瞬時」「時限」が未記入、ＤＧＲ箇所の「瞬時」「時限」が未記入
- ・ 様式５の５ 設備配置関連（主要設備レイアウト図）の記載誤り
- ・ 様式５の６ 設備配置関連（敷地平面図）について
 - 電柱番号の未記載

●接続検討申込書本書に添付する仕様書・試験成績書等の提出漏れ

- ・ パワコンの技術的説明資料（仕様書等）の提出なし
- ・ パワコンの試験成績書（波形データで確認できるもの）の提出なし
 - （ＪＥＴ認証品を使用の場合は、ＪＥＴ認証書を提出）
- ・ パワコンに内蔵されていないＯＣＲ、ＯＶＧＲ、ＤＧＲの保護装置の仕様書の提出なし
- ・ パワコンを取付けない場合、単独運転防止装置の仕様書の提出なし
- ・ ＰＡＳ（開閉器）の仕様書の提出なし
- ・ 発電機の仕様書の提出なし
- ・ 昇圧用変圧器の仕様書の提出なし
- ・ 高調波発生源「あり」の場合、高調波流出電流計算書の提出なし
- ・ 出力制御機能付ＰＣＳ仕様（諸元ほか）の提出なし
- ・ メーカーが発行する出力制限証明書の提出なし〔ＰＣＳを定格出力から出力制限している場合〕

【高圧】

記載例(太陽光・蓄電池・蓄電池併設)

年 月 日

接 続 検 討 申 込 書

電力広域的運営推進機関 or 株式会社

御中

一般送配電事業者又は配電事業者が同一法人又は親子法人等である系統連系希望者で
特定発電設備等の申込みは、「電力広域的運営推進機関」となります。

電気事業法等の関係法令、政省令その他ガイドライン、電力広域的運営推進機関の送配電等業務指針及び関係する一般送配電事業者又は配電事業者の約款・要綱等を承認の上、以下のとおり接続検討を申し込みます。

【申込者】

住 所 〒	●●●●●●●●	—	●●●●●●●●
	●●●●●●●●	市	●●●●●●●●
	●●●●●●●●	町	●●●●●●●●
(フリガナ)	(△△△△△△△)		
事 業 者 名	●●●●●●株式会社		
代 表 者 氏 名	●●●●●●●●		

(1) 発電設備等設置者名又は発電者の名称 (仮称可)	(フリガナ) (△△△△)
●●●●発電株式会社	
一般送配電事業者又は配電事業者の 同一法人又は親子法人等 該当有無	無 一般送配電事業者又は配電事業者が同一法人又は親子法人等であるかについて有・無をご選択ください。
(2) 発電所名 (仮称可)	(フリガナ) (△△△△)
●●●●発電所 (仮称)	
(3) 発電設備等設置場所の住所	●●●●県●●●●市●●●●町●●●●番地●●
(4) 連系先一般送配電事業者又は配電事業者	●●●●株式会社
(5) 既設アクセス設備 ^{※1} の有無	無 接続検討を申し込まれる発電設備等(発電場所)と電力系統を接続する既設の送電設備の有・無をご選択ください。
※1: アクセス設備: 発電設備等を送電系統に連系するための流通設備	
(6) 発電設備等変更の有無	新規 受給契約の契約種別をご選択ください。 ※契約種別によって技術検討の結果が変わることはありません。
(7) 契約種別 ^{※2} (予定)	一般送配電事業者又は配電事業者と受給契約を締結予定 (FIT制度の適用予定の場合) ※2: 入札の対象 (FIT/FIP) をご確認のうえ、選択して下さい。
(8) 連絡先	【申込書に関する連絡先窓口】 住 所 〒 ●●●●●●●● 東京都●●●●区●●●● 丁目●●●●番地●●号 事業者名: ●●●●発電株式会社 所 属: ●●●●部 担当者名: ●●●● 電 話: ●●●●-●●●●-●●●● e-mail: ●●●●@●●●● 【申込書(技術的事項)に関する連絡先窓口(上記と異なる場合のみ記載)】 住 所 〒 ●●●●●●●● 東京都●●●●区●●●● 丁目●●●●番地●●号 事業者名: ●●●●発電株式会社 所 属: ●●●●部 担当者名: ●●●● 電 話: ●●●●-●●●●-●●●● e-mail: ●●●●@●●●● 【接続検討料請求書の送付先】 申込書に関する連絡先窓口と同じ 【接続検討回答書の送付先】 申込書に関する連絡先窓口と同じ
(9) 特記事項	・最寄りの電柱は●●●●号柱。 (目標となる最寄りの電柱をご記載ください)

※電力広域的運営推進機関、一般送配電事業者又は配電事業者は、本申込書の情報を系統アクセス業務の実施のために使用します。

発電設備等の概要

1. 希望時期

(1) アクセス設備※ ¹ の運用開始希望日（一般送配電等側設備への接続希望日）	2025	年	10	月	1	日
(2) 発電設備等の連系開始希望日（試運転）※ ²	2026	年	2	月	1	日
(3) 発電設備等の連系開始希望日（営業運転開始日）	2026	年	6	月	30	日

※1：アクセス設備：発電場所と送電系統を接続する設備 ※2：運転開始前の試運転など、送電系統への送電電力を初めて発生させる希望日を記載

発電に限らず、電力系統に接続しアクセス設備を使用可能とする希望日を記載ください。（発電所の所内電力受電時期等）

試運転で系統連系する予定時期を記載ください。（発電機の連系開始前までは技術要件が整うことが必要です）

託送供給開始（営業運転開始）の予定時期を記載ください。

2. 希望受電電圧・予備電線路希望の有無

(1) 希望受電電圧※ ³	6.6	[kV]
(2) 予備電線路希望の有無	無	
希望する予備送電サービス（有の場合）	(有の場合のみ選択して下さい)	
予備送電サービス契約電力（有の場合）		[kW]

※3：接続検討の結果、希望受電電圧以外となる場合もございます。

連系エリアの一般送配電事業者及び配電事業者の託送供給等約款又はその他要綱等に定める契約受電電力に対する標準電圧を参考に、ご希望の受電電圧を記載ください。接続検討の結果、近傍の送配電設備の状況等により、希望受電電圧と異なる電圧でご回答することもあります。この場合は、予め推奨する連系電圧が最適であることを説明いたします。

発電設備のアクセス線の予備電線路の希望有無を記載ください。予備電線路がない場合、アクセス線の作業停止や事故停止等に伴って、運用上の制約が発生します。
※無の場合は、以下項目の記載は省略可。

・予備送電サービスとは、常時利用変電所から常時利用と同位の電圧で利用する場合があります。
・予備送電サービスとは、常時利用変電所以外の変電所を利用する場合または常時利用変電所から常時利用と異なった電圧（高圧または特別高圧に限り）で利用する場合があります。

3. 電源種別

(1) ー1 新設・増設の電源種別

該当する電源種別を選択してください。

新設・増設する電源種別	太陽光
特別措置の適用予定※ ¹⁰	(揚水・蓄電池の場合のみ選択して下さい)
早期連系追加対策(充電制限)の適用希望※ ¹¹	(蓄電池の場合のみ選択して下さい)
備考欄	

(1) ー2 新設・増設の電源種別※⁸

新設・増設する電源種別	初期設定は「なし」
特別措置の適用予定※ ¹⁰	(揚水・蓄電池の場合のみ選択して下さい)
早期連系追加対策(充電制限)の適用希望※ ¹¹	(蓄電池の場合のみ選択して下さい)
備考欄	

(2) ー1 既設の電源種別（既設電源がある場合）※⁹

既設電源種別	初期設定は「なし」
特別措置の適用予定※ ¹⁰	(揚水・蓄電池の場合のみ選択して下さい)
備考欄	

(2) ー2 既設の電源種別（既設電源がある場合）※⁹

既設電源種別	初期設定は「なし」
特別措置の適用予定※ ¹⁰	(揚水・蓄電池の場合のみ選択して下さい)
備考欄	

※4：発電機定格出力1,000kWを超えるもの。 ※5：発電機定格出力1,000kW以下のもの。

※6：バイオマスに該当する廃棄物のみを燃焼するものを含まず。

※7：地域資源バイオマスに該当する場合は、様式1「(9)特記事項」にその旨記載願います。

なお、その場合で燃料貯蔵や技術に由来する制御等により出力抑制が困難となる見込みである場合も様式1「(9)特記事項」にその旨記載願います。

※8：新設、増設時に電源種別が複数ある場合は、「(1) ー2 新設・増設の電源種別」を使用ください。（初期設定は「なし」）

※9：既設電源種別について選択ください。既設電源種別が複数ある場合は、「(2) ー2 既設の電源種別」を使用ください。（初期設定は「なし」）

※10：電源種別が「揚水」または「蓄電池」の場合は、「特別措置の適用予定」の有無についてご選択ください。

なお、「有」の場合のその他負荷とは、揚水発電設備または蓄電池に付随する負荷以外の負荷を指します。

※11：電源種別が「蓄電池」の場合に「早期連系追加対策（充電制限）」の適用希望有無についてご選択ください。

早期連系追加対策（充電制限）とは、順潮流側混雑に対する早期連系対策として、特定の断面における充電を制限することへの同意等を前提に、

熱容量面の系統増強をすることなく系統接続を認める対策を指します。

4. 発電設備等の定格出力合計※¹²

(1) 変更前	初期設定は「なし」	—	[台]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]
	初期設定は「なし」	—	[台]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]
(2) 変更後	太陽光	4	[台]	2,000	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]
	初期設定は「なし」	—	[台]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]

※12：ガスタービン等、外気温により発電出力が変化する場合には、各温度における発電出力を記載

受電地点における受電電力（系統への送電電力）の最大値、最小値を記載ください。
最小値は、停止時の系統からの供給電力をマイナス表記します。
最大：発電機最大出力(4項の数値)
最小：自家消費電力(6項の数値)

5. 受電地点における受電電力（送電系統への送電電力）※¹³

(1) 変更前	最大※ ¹⁴	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]
(2) 変更後	最大	1,998	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]
	最小	-40	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]	—	[kW]	(—)	[℃]

（記載例の計算式に拠らない場合は、考え方や理由を記載）：

※13：ガスタービン等、外気温により発電出力が変化する場合には、各温度における受電電力を記載（発電出力が最大になる外気温の受電電力記載は必須）

※14：連系地点において、受電電力がない（連系地点からの需要供給のみ）場合は、0を記載

6. 自家消費電力（発電に必要な所内電力を含む）

自家消費する電力（所内電力を含む）の最大値(最小値)とその負荷の力率を記載ください。力率は不明な場合「不明」と記載。

最大	40	[kW]	(力率 98)	[%]
最小※ ¹⁵	2	[kW]	(力率 98)	[%]

※15：発電の有無に拘わらず必要となる負荷設備の容量を記載

【参考：「発電事業」の要件 資源24計・行HPより】
「発電事業」は、以下のいずれの条件にも該当する発電用の電気工作物について、小売電気事業者等の用に供する電力の合計が1万kWを超えるものであること。
①出力計1,000kW以上
②託送契約上の同時最大受電電力がら超過
③年間の逆潮流量（電力量）がら超過

【参考：「小規模事業用電気工作物の例」経済産業省HPより】
出力10kW以上50kW未満の太陽光発電設備と出力20kW未満の風力発電設備

7. サイバーセキュリティ対策

【留意事項】系統連系に際して、サイバーセキュリティ対策の実施、セキュリティ管理責任者を通知いただく必要があるため、その確認をさせていただきます。

下記の対策について、同意の上、□にチェックを反映いただくとともに、セキュリティ管理責任者を記載ください。

対策	☒ 系統連系技術要件に基づいた以下のサイバーセキュリティ対策を実施します。
	・事業用電気工作物（発電事業の用に供するものに限る。）は、電力制御システムセキュリティガイドラインに準拠すること。 ・自家用電気工作物（発電事業の用に供するもの及び小規模事業用電気工作物を除く。）に係る遠隔監視システム及び制御システムは、「自家用電気工作物に係るサイバーセキュリティの確保に関するガイドライン」に準拠すること。 ・上記以外の発電設備等は、以下の対策を講じること。 1:外部ネットワークや他ネットワークを通じた発電設備等の制御に係るシステムへの影響を最小化するための対策 2:発電設備等の制御に係るシステムへのマルウェアの侵入防止対策
セキュリティ管理責任者：	その他 氏名 ●●●●

発電設備のセキュリティ管理責任者について、いずれかをご選択ください。その他を選択された場合、氏名を記載ください。

記載例(蓄電池の場合)

様式 2

発電設備等の概要

1. 希望時期

(1) アクセス設備 ^{※1} の運用開始希望日(一般送配電等側設備への接続希望日)	2025	年	10	月	1	日
(2) 発電設備等の連系開始希望日(試運転) ^{※2}	2026	年	2	月	1	日
(3) 発電設備等の連系開始希望日(営業運転開始日)	2026	年	6	月	30	日

※1: アクセス設備: 発電場所と送電系統を接続する設備 ※2: 運転開始前の試運転など、送電系統への送電電力を初めて発生させる希望日を記載

発電に限らず、電力系統に接続しアクセス設備を使用可能とする希望日をご記載ください。(発電所の所内電力受電時期等)

試運転で系統連系する予定時期をご記載ください。(発電機の連系開始までには技術要件が整うことが必要です)

託送供給開始(営業運転開始)の予定時期をご記載ください。

2. 希望受電電圧・予備電線路希望の有無

(1) 希望受電電圧 ^{※3}	6.6	[kV]
(2) 予備電線路希望の有無	無	
希望する予備送電サービス(有の場合)		(有の場合のみ選択して下さい)
予備送電サービス契約電力(有の場合)		[kW]

※3: 接続検討の結果、希望受電電圧以外となる場合もございます。

連系エリアの一般送配電事業者及び配電事業者の託送供給等約款又はその他要綱等に定める契約受電電力に対する標準電圧を参考に、ご希望の受電電圧をご記載ください。接続検討の結果、近傍の送配電設備の状況等により、希望受電電圧と異なる電圧でご回答することもあります。この場合は、予め推奨する連系電圧が最適切であることを説明いたします。

発電設備のアクセス線の予備電線路の希望有無をご記載ください。予備電線路がない場合、アクセス線の作業停止や事故停止等に伴って、運用上の制約が発生します。
※無の場合は、以下項目の記載は省略可。

・予備送電サービスとは、常時利用変電所から常時利用と同位の電圧で利用する場合があります。
・予備送電サービスとは、常時利用変電所以外の変電所を利用する場合または常時利用変電所から常時利用と異なる電圧(高圧または特別高圧に限り)で利用する場合をいいます。

3. 電源種別

(1) - 1 新設・増設の電源種別

該当する電源種別を選択してください。

(1) - 2 新設・増設の電源種別^{※8}

新設・増設する電源種別	蓄電池	「特別措置の適用予定」に関しては、託送供給等約款 則則の揚水発電設備または蓄電池の接続供給に係る特別措置の適用予定の有無をご記載ください。	「なし」
特別措置の適用予定 ^{※10}	有(その他負荷「有」)		「なし」を選択して下さい
早期連系追加対策(充電制限)の適用希望 ^{※11}	希望する	早期連系追加対策(充電制限)が適用可能な系統は、系統の特性や既連系の蓄電池の設備容量等を鑑み、一般送配電事業者が判断するため、早期連系追加対策(充電制限)の適用を希望された場合でも、適用できない場合があります。	「希望する」を選択して下さい
備考欄		備考欄	

(2) - 1 既設の電源種別(既設電源がある場合)^{※9}

既設電源種別	初期設定は「なし」
特別措置の適用予定 ^{※10}	(揚水・蓄電池の場合のみ選択して下さい)
備考欄	

(2) - 2 既設の電源種別(既設電源がある場合)^{※9}

既設電源種別	初期設定は「なし」
特別措置の適用予定 ^{※10}	(揚水・蓄電池の場合のみ選択して下さい)
備考欄	

※4: 発電機定格出力1,000kWを超えるもの。 ※5: 発電機定格出力1,000kW以下のもの。

※6: バイオマスに該当する廃棄物のみを燃焼するものを含まず。

※7: 地域資源バイオマスに該当する場合は、様式1「(9)特記事項」にその旨記載願います。

なお、その場合で燃料貯蔵や技術に由来する制御等により出力抑制が困難となる見込みである場合も様式1「(9)特記事項」にその旨記載願います。

※8: 新設、増設時に電源種別が複数ある場合は、「(1) - 2 新設・増設の電源種別」を使用ください。(初期設定は「なし」)

※9: 既設電源種別について選択ください。既設電源種別が複数ある場合は、「(2) - 2 既設の電源種別」を使用ください。(初期設定は「なし」)

※10: 電源種別が「揚水」または「蓄電池」の場合は、「特別措置の適用予定」の有無についてご選択ください。

なお、「有」の場合のその他負荷とは、揚水発電設備または蓄電池に付随する負荷以外の負荷を指します。

※11: 電源種別が「蓄電池」の場合に「早期連系追加対策(充電制限)」の適用希望有無についてご選択ください。

早期連系追加対策(充電制限)とは、順潮流混雑に対する早期連系対策として、特定の断面における充電を制限することへの同意等を前提に、

熱容量面の系統増強をすることなく系統接続を認める対策を指します。

4. 発電設備等の定格出力合計^{※12}

(1) 変更前	初期設定は「なし」	—	[台]	—	[kW]	(—)	[kW]	(—)	[°C]
	初期設定は「なし」	—	[台]	—	[kW]	(—)	[kW]	(—)	[°C]
(2) 変更後	蓄電池	4	[台]	{放電側}+2,000	[kW]	(—)	{充電側}-1,900	[kW]	(—)
	初期設定は「なし」	—	[台]	—	[kW]	(—)	[kW]	(—)	[°C]

※12: ガスタービン等、外気温により発電出力が変化する場合には、各温度における発電出力を記載

パワーコンディショナ単位で、蓄電池とパワーコンディショナの定格出力のいずれか小さい方を合算した値をご記載ください。(可能最大出力)なお、蓄電池の場合には、放電側をプラス表記、充電側をマイナス表記として、記載欄にそれぞれをご記載ください。

受電地点における受電電力(系統への送電電力)の最大値、最小値をご記載ください。最小値は、停止時の系統からの供給電力をマイナス表記します。
最大: 発電機最大出力(4項の数値)
最小: 自家消費最小電力(6項の数値)
最大: 蓄電池の最大出力(放電側) - 自家消費最小電力(6項の数値)
(例) 2,000kW - 2kW = 1,998kW
最小: 蓄電池の最大出力(充電側) - 自家消費最大電力(6項の数値)
(例) -1,900kW - 40kW = -1,940kW

5. 受電地点における受電電力(送電系統への送電電力)^{※13}

(1) 変更前	最大 ^{※14}	—	[kW]	(—)	[°C]
(2) 変更後	最大	1,998	[kW]	(—)	[°C]
	最小	-1,940	[kW]	(—)	[°C]

(記載例の計算式に拠らない場合は、考え方や理由を記載):

※13: ガスタービン等、外気温により発電出力が変化する場合には、各温度における受電電力を記載(発電出力が最大になる外気温の受電電力記載は必須)

※14: 連系地点において、受電電力がない(連系地点からの需要供給のみ)場合は、0を記載

自家消費する電力(所内電力を含む)の最大値(最小値)とその負荷の力率をご記載ください。力率は不明な場合「不明」と記載。なお、蓄電池の場合、自家消費する電力の最大値(最小値)には、蓄電池の最大出力(充電側)を除いた値をご記載ください。

6. 自家消費電力(発電に必要な所内電力を含む)

最大	40	[kW]	(力率 98)	[%]
最小 ^{※15}	2	[kW]	(力率 98)	[%]

※15: 発電の有無に拘わらず必要となる負荷設備の容量を記載

【参考:「発電事業」の要件 資源は6H・Pより】
「発電事業」は、以下のいずれの条件にも該当する発電用の電気工作物について、小売電気事業者の用に供する電力の合計が1万kWを超えるものであること。
①出力計1000kW以上
②託送契約上の同時最大受電電力が超過
③年間の逆潮流量(電力)が超過

【参考:「小規模事業用電気工作物の例」経済産業省HPより】
出力10kW以上50kW未満の太陽光発電設備と出力20kW未満の風力発電設備

7. サイバーセキュリティ対策

【留意事項】系統連系に際して、サイバーセキュリティ対策の実施、セキュリティ管理責任者を通知いただく必要があるため、その確認をさせていただきます。

下記の対策について、同意の上、□にチェックを反映いただくとともに、セキュリティ管理責任者を記載ください。

対策	☒ 系統連系技術要件に基づいた以下のサイバーセキュリティ対策を実施します。 ・事業用電気工作物(発電事業の用に供するものに限る。)は、電力制御システムセキュリティガイドラインに準拠すること。 ・自家用電気工作物(発電事業の用に供するもの及び小規模事業用電気工作物を除く。)に係る遠隔監視システム及び制御システムは、「自家用電気工作物に係るサイバーセキュリティの確保に関するガイドライン」に準拠すること。 ・上記以外の発電設備等は、以下の対策を講じること。 1: 外部ネットワークや他ネットワークを通じた発電設備等の制御に係るシステムへの影響を最小化するための対策 2: 発電設備等の制御に係るシステムへのマルウェアの侵入防止対策
セキュリティ管理責任者:	その他 氏名 ●●●●

発電設備のセキュリティ管理責任者について、いずれかをご選択ください。その他を選択された場合、氏名をご記載ください。

発電設備等の概要

1. 希望時期

(1) アクセス設備 ^{※1} の運用開始希望日(一般送配電等側設備への接続希望日)	2025	年	10	月	1	日
(2) 発電設備等の連系開始希望日(試運転) ^{※2}	2026	年	2	月	1	日
(3) 発電設備等の連系開始希望日(営業運転開始日)	2026	年	6	月	30	日

※1: アクセス設備: 発電場所と送電系統を接続する設備 ※2: 運転開始前の試運転など、送電系統への送電電力を初めて発生させる希望日を記載

発電に際し、電力系統に接続しアクセス設備を使用可能とする希望日をご記載ください。(発電所の所内電力受電時期等)

試運転で系統連系する予定時期をご記載ください。(発電機の連系開始前には技術要件が整うことが必要です)

託送供給開始(営業運転開始)の予定時期をご記載ください。

2. 希望受電電圧・予備電線路希望の有無

(1) 希望受電電圧 ^{※3}	6.6	[kV]
(2) 予備電線路希望の有無	無	
希望する予備送電サービス(有の場合)	(有の場合のみ選択してください)	
予備送電サービス契約電力(有の場合)		[kW]

※3: 接続検討の結果、希望受電電圧以外となる場合もございます。

連系エリアの一般送配電事業者及び配電事業者の託送供給等約款又はその他要綱等に定める契約受電電力に対する標準電圧を参考に、ご希望の受電電圧をご記載ください。接続検討の結果、近傍の送配電設備の状況等により、希望受電電圧と異なる電圧でご回答することもあります。この場合は、予め推奨する連系電圧が最適であることを説明いたします。

発電設備のアクセス線の予備電線路の希望の有無をご記載ください。予備電線路がない場合、アクセス線の作業停止や事故停止等に伴って、運用上の制約が発生します。
※無の場合は、以下項目の記載は省略可。

・予備送電サービスとは、常時利用変電所から常時利用と同位の電圧で利用する場合があります。
・予備送電サービスとは、常時利用変電所以外の変電所を利用する場合または常時利用変電所から常時利用と異なった電圧(高圧または特別高圧に限り)で利用する場合があります。

3. 電源種別

(1) - 1 新設・増設の電源種別

該当する電源種別を選択してください。

新設・増設する電源種別	蓄電池	(1) - 2 新設・増設の電源種別 ^{※8}	
特別措置の適用予定 ^{※10}	有(その他負荷「有」)	「特別措置の適用予定」に関しては、託送供給等約款 則則の場水発電設備または蓄電池の接続に係る特別措置の適用予定の有無を記載ください。	「なし」 み選択して下さい)
早期連系追加対策(充電制限)の適用希望 ^{※11}	希望する	早期連系追加対策(充電制限)が適用可能な系統は、系統の特性や既連系の蓄電池の設備容量等を踏まえ、一般送配電事業者が判断するため、早期連系追加対策(充電制限)の適用を希望された場合でも、適用できない場合があります。	選択して下さい)
備考欄		備考欄	

該当する既設の電源種別を選択してください。

(2) - 1 既設の電源種別(既設電源がある場合)^{※9}

既設電源種別	太陽光
特別措置の適用予定 ^{※10}	(揚水・蓄電池の場合のみ選択して下さい)
備考欄	

(2) - 2 既設の電源種別(既設電源がある場合)^{※9}

既設電源種別	初期設定は「なし」
特別措置の適用予定 ^{※10}	(揚水・蓄電池の場合のみ選択して下さい)
備考欄	

※4: 発電機定格出力1,000kWを超えるもの。 ※5: 発電機定格出力1,000kW以下のもの。

※6: バイオマスに該当する廃棄物のみを燃焼するものを含まず。

※7: 地域資源バイオマスに該当する場合は、様式1「(9)特記事項」にその旨記載願います。

なお、その場合で燃料貯蔵や技術に由来する制御等により出力抑制が困難となる見込みである場合も様式1「(9)特記事項」にその旨記載願います。

※8: 新設、増設時に電源種別が複数ある場合は、「(1) - 2 新設・増設の電源種別」を使用ください。(初期設定は「なし」)

※9: 既設電源種別について選択ください。既設電源種別が複数ある場合は、「(2) - 2 既設の電源種別」を使用ください。(初期設定は「なし」)

※10: 電源種別が「揚水」または「蓄電池」の場合は、「特別措置の適用予定」の有無についてご選択ください。

なお、「有」の場合のその他負荷とは、揚水発電設備または蓄電池に付随する負荷以外の負荷を指します。

※11: 電源種別が「蓄電池」の場合に「早期連系追加対策(充電制限)」の適用希望の有無についてご選択ください。

早期連系追加対策(充電制限)とは、順潮流混雑に対する早期連系対策として、特定の断面における充電を制限することへの同意等を前提に、

熱容量面の系統増強をすることなく系統接続を認める対策を指します。

4. 発電設備等の定格出力合計^{※12}

(太陽光) パワーコンディショナ単位で、太陽光パネルと太陽光用パワーコンディショナの定格出力のいずれか小さい方を合算した値をご記載ください。(可能最大出力)

(1) 変更前	太陽光	4	[台]	2,000	[kW]	(→ [°C])			
	初期設定は「なし」	—	[台]	—	[kW]	(→ [°C])			
(2) 変更後	太陽光	4	[台]	2,000	[kW]	(→ [°C])			
	蓄電池	4	[台]	(放電側) 1,500	[kW]	(→ [°C])	(充電側) 1,000	[kW]	(→ [°C])

※12: ガスタービン等、外気温により発電出力が変化する場合には、各温度における発電出力を記載

(蓄電池)
太陽光等と蓄電池を併設する場合は、各行毎にご記載ください。
パワーコンディショナ単位で、蓄電池と蓄電池用パワーコンディショナの定格出力のいずれか小さい方を合算した値をご記載ください。(可能最大出力)
なお、放電側をプラス表記、充電側をマイナス表記として、記載欄にそれぞれの値をご記載ください。
(系統充電を行わない場合は、充電側は0 kW とご記載ください)

5. 受電地点における受電電力(送電系統への送電電力)^{※13}

(1) 変更前	最大 ^{※14}	—	[kW]	(→ [°C])	
(2) 変更後	最大	1,998	[kW]	(→ [°C])	
	最小	-1,040	[kW]	(→ [°C])	

(記載例の計算式に拠らない場合は、考え方や理由を記載):

※13: ガスタービン等、外気温により発電出力が変化する場合には、各温度における受電電力を記載

※14: 連系地点において、受電電力がない(連系地点からの需要供給のみ)場合は、0 を記載

受電地点における受電電力(系統への送電電力)の最大値、最小値をご記載ください。
最小値は、停止時の系統からの供給電力をマイナス表記します。
最大: 発電機最大出力(4項の数値) - 自家消費最小電力(6項の数値)
ただし、系統への送電電力を発電機最大出力合計以下に制約する場合は、制約後の発電機最大出力を基にご記載ください
(低圧降下率も含めてご記載ください)
左記載例における制約後の発電機最大出力は、9,500 kW です。
最小: - 自家消費最大電力(6項の数値)
なお、以下を参考に記載ください。
最大: 発電機および蓄電池(放電側)の最大出力 - 自家消費最小電力(6項の数値)
(例) 2,000 kW - 2 kW = 1,998 kW
最小: 蓄電池の最大出力(充電側) - 自家消費最大電力(6項の数値)
(例) -1,000 kW - 40 kW = -1,040 kW

6. 自家消費電力(発電に必要な所内電力を含む)

自家消費する電力(所内電力を含む)の最大値(最小値)とその負荷の力率をご記載ください。力率は不明な場合「不明」と記載。なお、蓄電池の場合、自家消費する電力の最大値(最小値)には、蓄電池の最大出力(充電側)を除いた値をご記載ください。

最大	40	[kW]	(力率 98 [%])
最小 ^{※15}	2	[kW]	(力率 98 [%])

※15: 発電の有無に拘わらず必要となる負荷設備の容量を記載

【参考:「発電事業」の要件 資源124-行 Pより】
「発電事業」は、以下のいずれの条件にも該当する発電用の電気工作物について、
小売電気事業者等に供給する電力の合計が1万kWを超えるものであること。
①出力計1,000 kW以上
②託送契約上の同時最大受電電力が5兆超
③年間の定額流量(電力)量が5兆超

【参考:「小規模事業用電気工作物の例」 経済産業省 Pより】
出力10 kW 以上50 kW 未満の太陽光発電設備と出力20 kW 未満の風力発電設備

7. サイバーセキュリティ対策

【留意事項】系統連系に際して、サイバーセキュリティ対策の実施、セキュリティ管理責任者を通知いただく必要があるため、その確認をさせていただきます。

下記の対策について、同意の上、□にチェックを反映いただくとともに、セキュリティ管理責任者を記載ください。

対策	☒ 系統連系技術要件に基づいた以下のサイバーセキュリティ対策を実施します。 ・事業用電気工作物(発電事業の用に供するものに限る。)は、電力制御システムセキュリティガイドラインに準拠すること。 ・自家用電気工作物(発電事業の用に供するもの及び小規模事業用電気工作物を除く。)に係る遠隔監視システム及び制御システムは、「自家用電気工作物に係るサイバーセキュリティの確保に関するガイドライン」に準拠すること。 ・上記以外の発電設備等は、以下の対策を講じること。 1: 外部ネットワークや他ネットワークを通じた発電設備等の制御に係るシステムへの影響を最小化するための対策 2: 発電設備等の制御に係るシステムへのマルウェアの侵入防止対策
セキュリティ管理責任者:	その他 氏名 ●●●●

発電設備のセキュリティ管理責任者について、いずれかをご選択ください。その他を選択された場合、氏名をご記載ください。

発電設備仕様（回転機）

太陽光・蓄電池は不要

号発電機（既設/新設/増設を選択下さい）

1. 全般

(1) 原動機の種類（ガスタービン、風力など）	
(2) コージェネ採用有無	（有無を選択下さい）
(3) 発電機の種類（同期発電機、誘導発電機）	
(4) 発電機台数	〔台〕

2. 昇圧用変圧器

(1) 定格容量		〔kVA〕
(2) 定格1次電圧／2次電圧		〔V〕 〔kV〕
(3) タップ切替器仕様	タップ数 電圧調整範囲	〔kV〕
(4) %インピーダンス（変圧器定格容量ベース）		〔%〕

3. 交流発電機

共通事項	容量		〔kVA〕
	定格電圧		〔V〕
	定格出力		〔kW〕
	出力抑制時の最低出力（火力・バイオマスの場合）		〔kW〕
	力率（定格）	〔%〕	力率（運転可能範囲） 遅れ 〔%〕～ 進み 〔%〕
	F R T要件適用の有無		（有無を選択下さい）
	運転可能周波数		〔Hz〕～ 〔Hz〕
	連続運転可能周波数		〔Hz〕～ 〔Hz〕
	周波数低下時の運転継続時間	0.97pu時（50Hzエリア：48.5/60Hzエリア：58.2〔Hz〕） 0.96pu時（50Hzエリア：48.0/60Hzエリア：57.6〔Hz〕）	〔分〕 〔分〕
	並列時許容周波数（上限）	設定可能範囲 設定値（50Hzエリア：50.1/60Hzエリア：60.1〔Hz〕）	〔Hz〕～ 〔Hz〕
	自動電圧調整装置（AVR）の有無		（有無を選択下さい）
	自動電圧調整装置（AVR）の定数（整定値）		
	出力低下防止機能（下記に該当する場合） ・火力 ・コージェネ（ガスタービン・ガスタービンを除く）		（該当する場合、有無を選択下さい） 有の場合 出力低下防止周波数： 〔Hz〕 （詳細は様式5の12に記載）
	同期発電機	(a) X_d （同期リアクタンス）	〔%〕
		(b) X_d' （過渡リアクタンス）	〔%〕
		(c) X_d'' （初期過渡リアクタンス）	〔%〕
		(d) T_{do}' （開路時定数）	〔s〕
		(e) T_{do}'' （開路時定数）	〔s〕
		(f) 慣性定数（発電機+タービン合計値）	〔s〕
		制動巻線	（有無を選択下さい）
	誘導発電機	(g) x （拘束リアクタンス）	〔%〕
		限流リアクトル	（有無を選択下さい）
		限流リアクトル容量（限流リアクトル有の場合）	

※ (a)、(b)、(c)または、(g)については必ず記載

【留意事項】

- 異なる仕様の発電機がある場合は、本様式を複写し、仕様毎にご記載ください。
- 異なる種別の電源を併設し連系する場合は、電源種毎に該当する様式3を作成し、ご提出ください。
- 系統安定度の検討などで、さらに詳細な資料を確認させていただく場合があります。

発電設備仕様（直流発電設備等）

年 月 日

1～4 号発電機

新設

1. 全般

(1) 原動機の種類（※エンジン、風力、太陽光など）	太陽光発電
(2) 発電機台数（PCSまたは逆変換装置の台数）	4 [台]

2. 昇圧用変圧器

(1) 定格容量	2,100 [kVA]
(2) 定格1次電圧／2次電圧	200 [V]／6.6 [kV]
(3) タップ切替器仕様	タップ数 5
	電圧調整範囲 F6.75－R6.6－F6.45－F6.3－F6.15 [kV]
(4) %インピーダンス（変圧器定格容量ベース）	5.0 [%]

昇圧用変圧器の定格容量、定格電圧、タップ数、各タップ電圧%インピーダンス（定格容量ベース）をご記載ください。
※メーカーのカタログ等を参照してください。

3. 直流発電機

直流発電装置	直流最大出力	2,000 [kW]
	最高使用電圧	400 [V]
	その他特記事項	・ 直流発電設備合計 500kW×1,000枚=500kW（1ユニット） ・ 発電設備合計 500kW×4ユニット=2,000kW
逆変換装置（インバータ）	電気方式	三相3線式
	定格電圧	200（－10～＋12%） [V]
	定格出力	500 [kW]
	力率（定格）	85%以上（出力1/8～定格時） [%]
	力率（運転可能範囲）	遅れ 85 [%] ～ 進み 85 [%]
	運転可能周波数	48.5 [Hz] ～ 52.5 [Hz]
	連続運転可能周波数	47.5 [Hz] ～ 53.5 [Hz]
	周波数低下時の運転継続時間	0.97pu時（50Hzエリア：48.5/60Hzエリア：58.2 [Hz]） 0.96pu時（50Hzエリア：48.0/60Hzエリア：57.6 [Hz]）
	並列時許容周波数（上限）	設定可能範囲 設定値（50Hzエリア：50.1/60Hzエリア：60.1 [Hz]）
	自動電圧調整装置（AVR）の有無	有
	自動電圧調整装置（AVR）の定数（整定値）	有の場合 整定値：220 [V] （整定可能範囲：214～230 [V]、1 [V]刻み）
	主回路方式	自励式（電圧形）
	出力制御方式	電圧制御方式 50 %抑制
	絶縁変圧器	有
	通電電流制限値・遮断時間	○○○ [%]・○○ [ms]
	F R T 要件適用の有無	有
	（測定データ）	高周波 （電波障害、伝導障害）対策
	高調波電流歪率	総合 5.0 [%]以下 各次最大 第 6 次 3.0 [%]以下
	その他	力率一定制御

直流発電機の最大出力を記載してください。
太陽光発電の場合、各号機毎のパネルの総出力をご記載ください。

発電設備合計・パネル内訳をご記載ください。

逆変換装置の電気方式、定格電圧、定格出力をご記載ください。

力率一定制御の場合は、その他の欄へ記載してください。

力率の値は発電設備等側からみた遅れまたは進みの値をご記載ください。

発電する際の周波数をご記載ください。

発電機並列時に系統周波数が並列時許容周波数（50Hzエリア：50.1Hz／60Hzエリア：60.1Hz）以下となっていることを確認する装置または機能の設定可能範囲をご記載ください。

自動電圧調整装置（AVR）の有無を記載してください。
「有」の場合には、整定値、整定可能範囲、刻みをご記載ください。

インバータの主回路方式（転流方式を含む）をご記載ください。
※スイッチング方式ではございません。

インバータの出力制御方式、ならびに出力制御する際の最大抑制率をご記載ください。

事故時運転継続（F R T）要件適用の有無を記載してください。F R T要件の詳細は、系統連系規程をご参照ください。

高調波による電波障害や伝導障害に対する対策がある場合には記載ください。

【留意事項】

- 異なる仕様の発電機がある場合は、本様式を複写し、仕様毎に記載ください。
- 異なる種別の電源を併設し連系する場合は、電源種毎に該当する様式3を作成し、ご提出ください。
- 系統安定度の検討などで、さらに詳細な資料を確認させていただく場合があります。

保護リレー等

連系用遮断器、その他機器の仕様についてご記載ください。
 ◇遮断器 VCB の仕様についてご記載ください。
 ◇その他機器 VT・CT・PD・ZPD・ZCT の仕様についてご記載ください。

保護リレー等

機器名称	系	製造者	型式	定格容量		遮断容量	動作時間	備考
遮断器 (V C B)	主	〇〇〇	〇〇〇	7,200	[V]	600	[A]	12.5k [A]
()					[V]		[A]	3 [サイクル]
V T	主	〇〇〇	〇〇〇	6,600	[V]/	110	[V]	— 負担 : 50 [VA]
					[V]/		[V]	— 負担 : [VA]
C T	主	〇〇〇	〇〇〇	300	/5 [A]	40	[VA]	過電流強度 40
	主							過電流定数 n>10
								機械的耐電流 12.5[kA] 0.25[s]
P D		〇〇〇	〇〇〇			250	[pF]	Z P D 6,600 [V] / 7.6 [V]
Z C T	主	〇〇〇	〇〇〇			200/1.5m	[A]	

保護リレー諸元

記号	リレー名称	系	製造者	型式	相数	整定範囲			
OCR-H (51R)	過電流	主	〇〇〇	〇〇〇	2	電流:	2-2.5-3-3.5-4-4.5-5-6A	瞬時:	10-15-20-25-30-40-50-60A
						時限:	0.25-0.5-1-2-3-4-5-6-7-8-9-10-30-60s		タップ: 3-3.5-4-4.5-5-6A
DGR (67GR)	地絡方向	主	〇〇〇	〇〇〇	1	電流:	0.2-0.3-0.4-0.6A	電圧:	2.5-5.0-7.5-10.0%
						時限:	0.2-0.3-0.4-0.6s		
OVGR (64R)	地絡過電圧	1	〇〇〇	〇〇〇	1	電圧:	2-2.5-3-4-5-6-7.5-10-15-30%	時限:	0.1-0.9(0.1s ステップ) 1-2-4-6-10s
		2				電圧:	保護リレーについて、製造者、型式、相数、整定範囲について、ご記載ください。 ※PCSや各継電器の仕様書等をご参照ください。		
						備考:			
DSR (67S)	方向短絡	1				電流:		時限:	
						電圧:			
						備考:	【補足説明】 ◆CT過電流定数n 保護リレー用変流器であることから過電流領域や短絡領域での特製が重要である。CTの過電流領域における誤差を過電流定数で示す。「比誤差が-10% となるとき1次側電流を定格1次側電流で除した数」		
		2				電流:			
						電圧:		時限:	
						備考:			
OVR (59R)	過電圧	1	〇〇〇	〇〇〇 (PCS内蔵)	3	電圧:	200V~240V (2V ステップ)	時限:	0.5-2.0(0.1s ステップ)
		2				電圧:		時限:	
						備考:			
UVR (27R)	不足電圧	1	〇〇〇	〇〇〇 (PCS内蔵)	3	電圧:	160V~200V (2V ステップ)	時限:	0.5-2.0(0.1s ステップ)
		2				電圧:		時限:	
						備考:			
OFR (95H)	周波数上昇	1	〇〇〇	〇〇〇 (PCS内蔵)	1	周波数:	50.25-53.0Hz (0.25Hz毎)	時限:	0.5-2.0(0.1s ステップ)
						備考:			
UFR (95L)	周波数低下	1	〇〇〇	〇〇〇 (PCS内蔵)	1	周波数:	47.0-49.7Hz (0.25Hz毎)	時限:	0.5-2.0(0.1s ステップ)
						備考:			
		2				周波数:		時限:	
						備考:			
RPR ※ (67P)	逆電力	1				電力:		時限:	
						備考:			
		2				電力:		時限:	
						備考:			
UPR ※ (91L)	不足電力	1				電力:		時限:	
						備考:			
						単独運転検出機能(受動方式・能動方式)について、製造者、型式、相数、整定範囲、時限をご記載ください。			
						備考:			
単独運転検出要素 (受動: 電圧位相跳躍検出)			〇〇〇	〇〇〇	1	整定値:	OFF、3、6、9、12、15°	時限:	0.5s以内
						備考:			
単独運転検出要素 (能動: 無効電力変動方式)			〇〇〇	〇〇〇	1	整定値:	OFF、ON 検出周波数±5	時限:	0.5s~1.0s
						備考:			

※逆潮流なしの場合

付加機能に関する事項	・電圧上昇抑制機能	有
	・発電機並列時・脱着時の電圧変動抑制機能	無
	・自動負荷遮断装置	有
	・自動同期検定装置	有
	電圧上昇抑制機能、発電機並列時・脱着時の電圧変動抑制機能、自動負荷遮断装置、自動同期検定機能の有無をご記載ください。	電圧 5 [%]、周波数差 0.4 [Hz] 位相差 ±1 度、前進時間 0.05 [s]

発電設備仕様（二次励磁巻線形誘導機）

年 月 日

太陽光・蓄電池は不要

号発電機 (既設/新設/増設を選択下さい)

1. 全般

(1) 原動機の種類（風力など）	
(2) コージェネ採用有無	(有無を選択下さい)
(3) 発電機台数	[台]

2. 昇圧用変圧器

(1) 定格容量		[kVA]
(2) 定格1次電圧／2次電圧	[V]／	[kV]
(3) タップ切替器仕様	タップ数 電圧調整範囲	[kV]
(4) %インピーダンス（変圧器定格容量ベース）		[%]

3. 交流発電機

(1) メーカー・型式	【メーカー】	【型式】
(2) 電気方式	(電気方式を選択下さい)	
(3) 定格容量		[kVA]
(4) 定格出力		[kW]
(5) 出力抑制時の最低出力（火力・バイオマスの場合）		[kW]
(6) 定格電圧		[kV]
(7) 力率	定格 [%] 調整範囲	運転可能範囲 遅れ [%]～ 進み [%] 力率設定範囲： [%]～ [%] 力率設定ステップ： [%]
(8) 定格周波数		[Hz]
(9) 連続運転可能周波数	[Hz]～ [Hz]	運転可能周波数 [Hz]～ [Hz]
(10) 周波数低下時の運転継続時間	0.97pu時（50Hzエリア：48.5/60Hzエリア：58.2 [Hz]） 0.96pu時（50Hzエリア：48.0/60Hzエリア：57.6 [Hz]）	[分] [分]
(11) 並列時許容周波数（上限）	設定可能範囲 設定値（50Hzエリア：50.1/60Hzエリア：60.1 [Hz]）	[Hz]～ [Hz]
(12) 出力低下防止機能（下記に該当する場合） ・火力 ・コージェネ（定格出力60MW未満のガス・ヒート・ガスエンジンを除く）		(該当する場合、有無を選択下さい) 有の場合 出力低下防止周波数： [Hz] (詳細は様式5の12に記載)
(13) 系統並解列箇所		添付 様式5の4 参照
(14) 自動的に同期がとれる機能の有無		(有無を選択下さい)
(15) 誘導発電機諸定数	基準容量 (a) 拘束リアクタンス (X_L)	[kVA] [%]
(16) 二次励磁装置種類	(a) 主回路方式 (b) 出力制御方式	(主回路方式を選択下さい) (電圧型/電流型 を選択下さい) (出力制御方式を選択下さい) (PWM/PAM (サイリスタ) を選択下さい)
(17) 事故時運転継続 (FRT) 要件適用の有無		(有無を選択下さい)
(18) 高調波電流歪率	総合 各次最大	第 次 [%] [%]

【留意事項】

- 異なる仕様の発電機がある場合は、本様式を複写し、仕様毎にご記載ください。
- 異なる種類の電源を併設し連系する場合は、電源種毎に該当する様式3を作成し、ご提出ください。
- 系統安定度の検討などで、さらに詳細な資料を確認させていただく場合があります。

記載例(太陽光の場合)

年 月 日

発電設備仕様 (逆変換装置)

各数値は、メーカーへお問い合わせいただき、ご記載ください。

号発電機

新設

1. 全般

(1) 原動機の種類 (風力、太陽光など)	昇圧用変圧器の記入欄はありませんが、本様式と同時に提出いただく様式3の2 (直流発電設備) 等にご記入ください。	太陽光発電
(2) 台数 (逆変換装置またはPCSの台数)		4 [台]

2. 逆変換装置

(1) メーカー・型式	【メーカー】 ○○○○ 【型式】 ○○○○
(2) 電気方式	三相3線式
(3) 定格容量	525 [kVA]
(4) 定格出力	500 [kW]
(5) 出力変化範囲	0 [kW] ~
(6) 定格電圧	0.2 [kV]
(7) 力率 (定格)	95 [%]
(8) 力率 (運転可能範囲)	遅れ 95 [%] ~ 進み 95 [%]
(9) 定格周波数	50 [Hz]
(10) 連続運転可能周波数	48.5 [Hz] ~ 52.5 [Hz] 運転可能周波数※1 47.5 [Hz] ~ 53.5 [Hz]
(11) 周波数低下時の運転継続時間※1	0.97pu時 (50Hzエリア : 48.5/60Hzエリア : 58.2 [Hz]) 10 [分] 0.96pu時 (50Hzエリア : 48.0/60Hzエリア : 57.6 [Hz]) 1 [分]
(12) 並列時許容周波数 (上限)	設定可能範囲 50.1 [Hz] ~ 51.0 [Hz] 設定値 (50Hzエリア : 50.1/60Hzエリア : 60.1 [Hz]) 50.1 [Hz]
(13) 電圧調整機能	無効電力調整機能、その他 (力率一定制御)
(14) 自動同期検定機能 (自励式の場合)	有
(15) 系統並解列箇所	発電機の並解列箇所の分ける図を様式5の4にご記載ください。 添付 様式5の4 参照
(16) 通電電流制限値・遮断時間	150 [%] ・ 100 [ms]
(17) 主回路方式	自励式 (電圧形)
(18) 出力制御方式	電流制御方式
(19) 事故時運転継続 (FRT) 要件適用の有無	有
(20) 高調波電流歪率	総合 0.8 [%] 各次最大 第 13 次 0.5 [%]
(21) 発電機の出力特性 (風力の場合)	添付 様式5の9~10 参照
(22) 出力変動対策の方法 (風力の場合)	添付 様式5の11 参照
(23) 蓄電池設置 (出力変動対策) の有無 (風力の場合) ※2	太陽光の場合は記載不要です。
(24) ウィンドファームコントローラーの有無 (風力の場合)	(該当する場合、有無を選択下さい)
(25) 蓄電容量	出力 [kW] 時間 [h]

※1 : 逆変換装置を用いた発電設備等でFRT要件非適用の設備は記載不要

※2 : 「有」の場合、蓄電池設備仕様および蓄電池システムの諸元を算定するためのシミュレーションに使用した発電データ等の提出が必要となります。
(任意様式)

【留意事項】

- 異なる仕様の逆変換装置がある場合は、本様式を複写し、仕様毎にご記載ください。
- 異なる種別の電源を併設し連系する場合は、電源種毎に該当する様式3を作成し、ご提出ください。
- 電圧変動の検討などで、さらに詳細な資料を確認させていただく場合があります。

力率の値は発電設備等側からみた遅れまたは進みの値をご記載ください。

発電機並列時に系統周波数が並列時許容周波数 (50Hzエリア : 50.1Hz / 60Hzエリア : 60.1Hz) 以下となっていることを確認する装置または機能の設定可能範囲をご記載ください。

並列時許容周波数 (上限) の設定値をご記載ください。

逆変換装置の電圧調整機能の種類を記載してください。
力率一定制御が可能な場合は、その他の () 内に「力率一定制御」とご記載ください。

逆変換装置の高調波電流歪率を記載してください。ご不明な場合は、メーカーへお問い合わせください。
別途示す上限値を超過する場合には、再検討が必要となる場合があります。

【参考：自励式三相ブリッジ (PWM制御) の場合】サイリスタ適用時と異なり、「等価容量」 (6V/Ls変換装置容量に変換) 算出計数がゼロ (k=0) の為、数値はゼロとなるが、ここでは風車認証時のデータをご記載ください。
※参考>電協研4-6巻2号 総合5%以下、各次3%以下が望ましい

記載例(蓄電池の場合)

年 月 日

発電設備仕様 (逆変換装置)

各数値は、メーカーにお問い合わせいただき、ご記載ください。

号発電機

新設

1. 全般

(1) 原動機の種類 (風力、太陽光など)		蓄電池
(2) 台数 (逆変換装置またはPCSの台数)	昇圧用変圧器の記入欄はありませんが、本様式と同時に提出いただく様式3の2 (直流発電設備) 等にご記入ください。	4 [台]

2. 逆変換装置

(1) メーカー・型式	【メーカー】	〇〇〇〇	【型式】	〇〇〇〇
(2) 電気方式	三相3線式			
(3) 定格容量				525 [kVA]
(4) 定格出力				500 [kW]
(5) 出力変化範囲		0 [kW] ~		500 [kW]
(6) 定格電圧				0.2 [kV]
(7) 力率 (定格)				95 [%]
(8) 力率 (運転可能範囲)		遅れ	95 [%] ~ 進み	95 [%]
(9) 定格周波数				50 [Hz]
(10) 連続運転可能周波数		48.5 [Hz] ~ 52.5 [Hz]	運転可能周波数 ^{※1}	47.5 [Hz] ~ 53.5 [Hz]
(11) 周波数低下時の運転継続時間 ^{※1}	0.97pu時 (50Hzエリア: 48.5/60Hzエリア: 58.2 [Hz])			10 [分]
	0.96pu時 (50Hzエリア: 48.0/60Hzエリア: 57.6 [Hz])			1 [分]
(12) 並列時許容周波数 (上限)	設定可能範囲		50.1 [Hz] ~	51.0 [Hz]
	設定値 (50Hzエリア: 50.1/60Hzエリア: 60.1 [Hz])			50.1 [Hz]
(13) 電圧調整機能				無効電力調整機能、その他 (力率一定制御)
(14) 自動同期検定機能 (自動式の場合)				有
(15) 系統並解列箇所	発電機の並解列箇所の分かる図を様式5の4にご記載ください。		添付 様式5の4 参照	
(16) 通電電流制限値・遮断時間			150 [%]・	100 [ms]
(17) 主回路方式				自動式 (電圧形)
(18) 出力制御方式	事故時運転継続 (FRT) 要件適用の有無をご記載ください。FRT要件の詳細は、系統連系規程をご参照ください。			電流制御方式
(19) 事故時運転継続 (FRT) 要件適用の有無				有
(20) 高調波電流歪率	総合			0.8 [%]
	各次最大	第 13 次		0.5 [%]
(21) 発電機の出力特性 (風力の場合)			添付 様式5の9~10 参照	
(22) 出力変動対策の方法 (風力の場合)			添付 様式5の11 参照	
(23) 蓄電池設置 (出力変動対策) の有無 (風力の場合) ^{※2}	蓄電池の場合は記載不要です。			(該当する場合、有無を選択下さい)
(24) ウィンダファームコントローラーの有無 (風力の場合)				(該当する場合、有無を選択下さい)
(25) 蓄電容量	出力	500 [kW]	時間	3.0 [h]

※1: 逆変換装置を用いた発電設備等でFRT要件非適用の設備は記載不要

※2: 「有」の場合、蓄電池設備仕様および蓄電池システムの諸元を算定するためのシミュレーションに使用した発電データ等の提出が必要となります。
(任意様式)

【留意事項】

- 異なる仕様の逆変換装置がある場合は、本様式を複写し、仕様毎にご記載ください。
- 異なる種類の電源を併設し連系する場合は、電源種毎に該当する様式3を作成し、ご提出ください。
- 電圧変動の検討などで、さらに詳細な資料を確認させていただく場合があります。

力率の値は発電設備等側からみた遅れまたは進みの値をご記載ください。

発電機並列時に系統周波数が並列時許容周波数 (50Hzエリア: 50.1Hz / 60Hzエリア: 60.1Hz) 以下となっていることを確認する装置または機能の設定可能範囲をご記載ください。

並列時許容周波数 (上限) の設定値をご記載ください。

逆変換装置の電圧調整機能の種類を記載してください。
力率一定制御が可能な場合は、その他の○内に「力率一定制御」とご記載ください。逆変換装置の高調波電流歪率を記載してください。ご不明な場合は、メーカーへお問い合わせください。
別途示す上限値を超過する場合には、再検討が必要となる場合があります。【参考: 自動式三相ブリッジ (PMW制御) の場合】サイリスタ適用時と異なり、「等価容量」(6ハルス変換装置容量に変換) 算出計数がゼロ (k=0) の為、数値はゼロとなるが、ここでは風車認証時のデータをご記載ください。
<参考>電協研46巻2号 総合5%以下、各次3%以下が望ましい

負荷設備および受電設備

年 月 日

1. 負荷設備

(1) 合計容量	40 [kW]
(2) 総合負荷力率	98 [%]

余剰電力売電の場合は、自家消費電力の数値を含めてご記載ください。

2. 受電用変圧器

(1) 定格容量		2,100 [kVA]	
(2) 定格1次電圧／2次電圧		6.6 [kV]／	210 [V]
(3) タップ切替器仕様	タップ数	5	
	電圧調整範囲	F6.75－R6.6－F6.45－F6.3－F6.15 [kV]	
	制御方式	手動	
(4) %インピーダンス (変圧器定格容量ベース)		5 [%]	
(5) 台数		1 [台]	

受電用変圧器について定格容量、電圧、タップ切替仕様、%Z、台数をご記載ください。
なお、様式3の昇圧用変圧器と兼用する場合は、当該昇圧用変圧器の仕様をご記載ください。

3. 調相設備^{※1}

(1) 種類		なし
(2) 電圧別容量	高圧	
	低圧	
(3) 合計容量		
(4) 自動力率制御装置の有無		(有無を選択下さい)

※1：「総合負荷力率」に調相設備を含む場合は不要

4. 高調波発生機器 (無)

※高調波発生機器を有する場合には、「高調波抑制対策技術指針 (IEAG9702)」の高調波流出電流計算書を添付してください。

5. 電圧フリッカ発生源 (無) 電圧フリッカ対策 (無)

対策設備の概要 ※電圧フリッカ対策有の場合は資料を添付してください。

6. 特記事項

主 送 電 機 系 伝 達 関 数 プ ロ ッ ク 図

－ 励 磁 系 －

年 月 日

太陽光・蓄電池は不要

送電機制御系統伝達回数ブロック図

— ガバナンス —

年 月 日

太陽光・蓄電池は不要

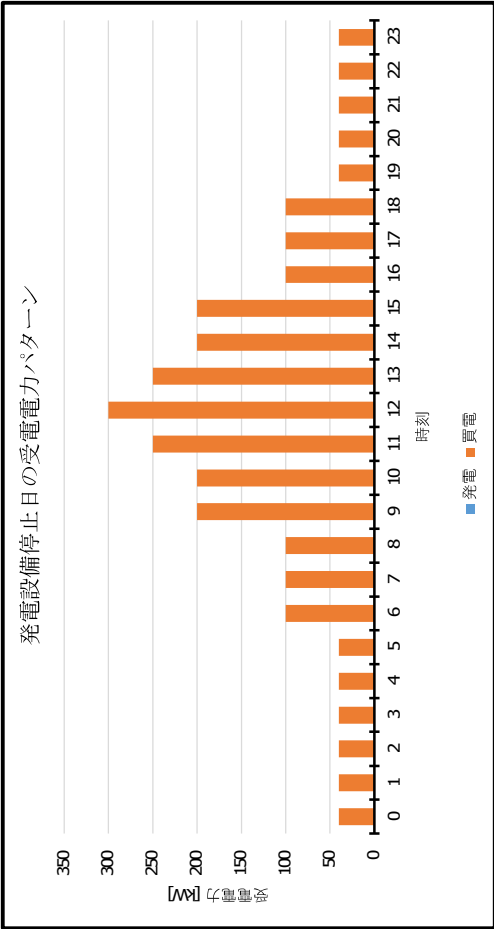
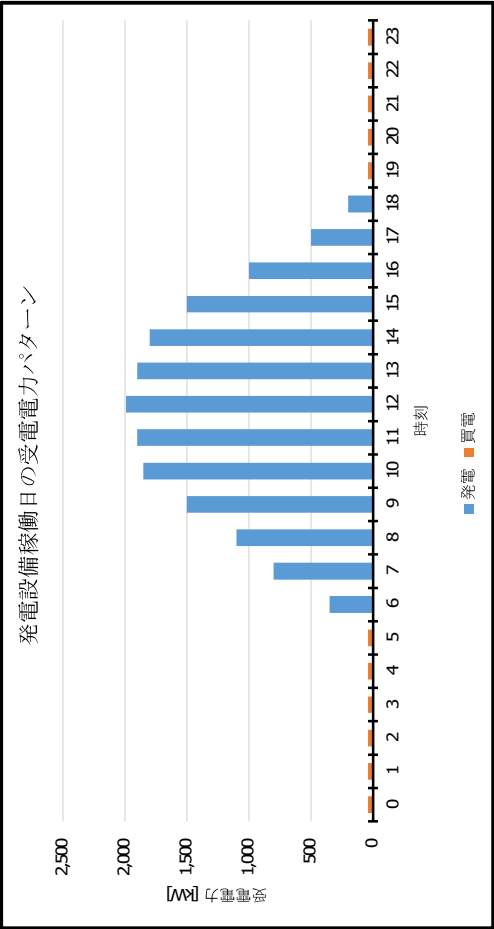
設備運用方法

ー 発電機運転パターン、受電地点における受電力パターン ー

時季 ^{※1}	通 年
------------------	-----

※1：通年のパターンを代表でご記入ください。ただし、必要に応じて季節別のパターンの提出を求める場合もございます。

時刻	稼働 [kW]		停止 [kW]	
	発電	買電	発電	買電
0:00	0	40	0	40
1:00	0	40	0	40
2:00	0	40	0	40
3:00	0	40	0	40
4:00	0	40	0	40
5:00	0	40	0	40
6:00	350	0	0	100
7:00	800	0	0	100
8:00	1,100	0	0	100
9:00	1,500	0	0	200
10:00	1,850	0	0	200
11:00	1,900	0	0	250
12:00	1,990	0	0	300
13:00	1,900	0	0	250
14:00	1,800	0	0	200
15:00	1,500	0	0	200
16:00	1,000	0	0	100
17:00	500	0	0	100
18:00	200	0	0	100
19:00	0	40	0	40
20:00	0	40	0	40
21:00	0	40	0	40
22:00	0	40	0	40
23:00	0	40	0	40



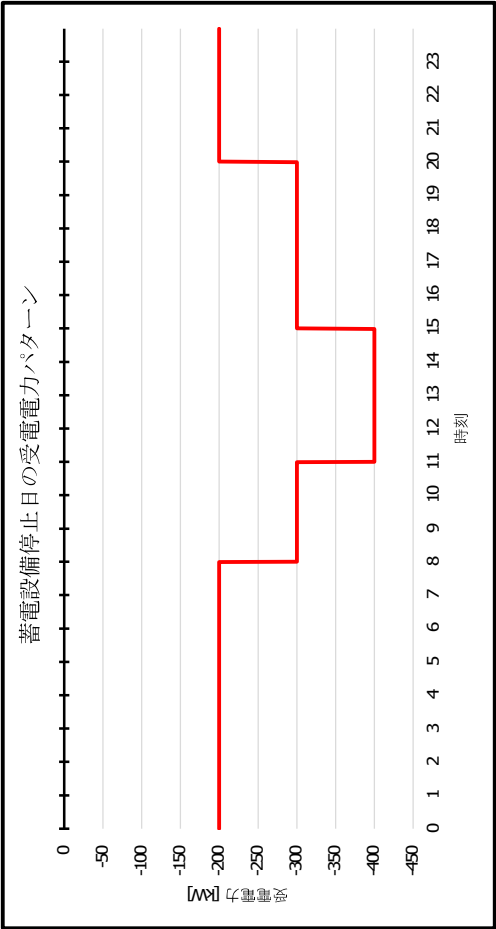
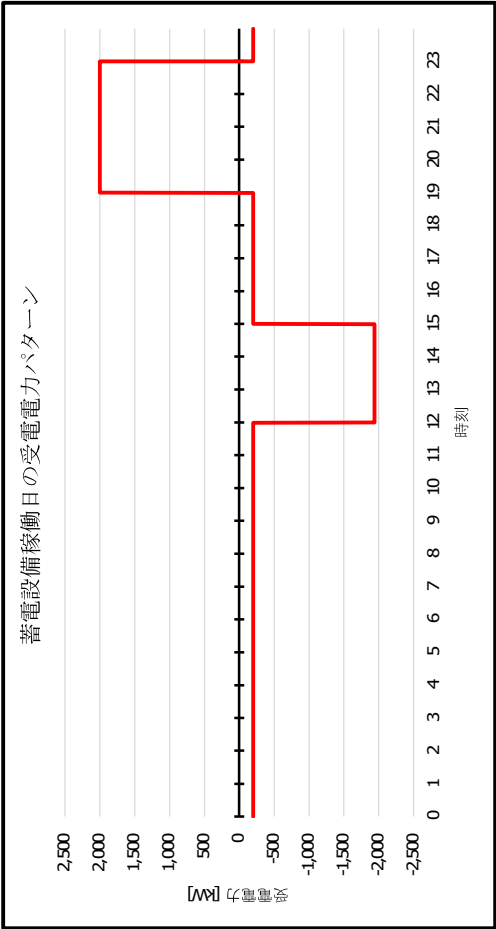
設備運用方法

蓄電池運転パターン、受電地点における受電力パターン

時季 ^{※1}	通年
------------------	----

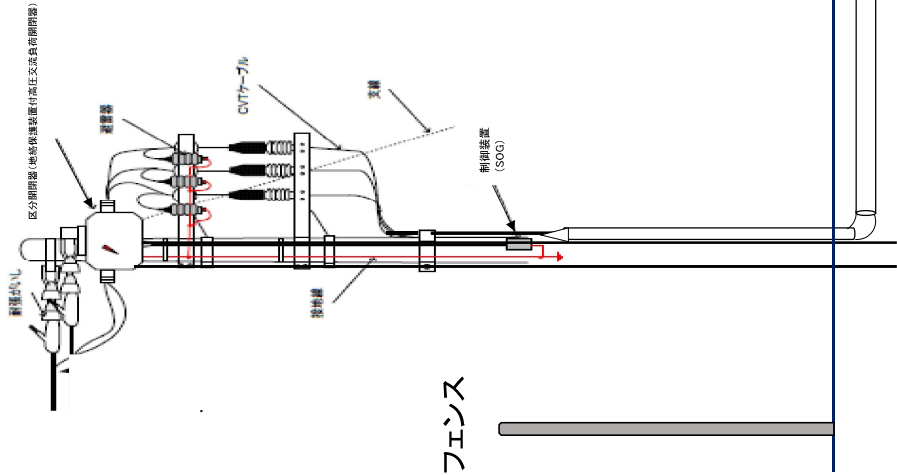
※1：通年のパターンを代表でご記入ください。ただし、必要に応じて季節別のパターンの提出を求める場合もございます。

時刻	稼働 [kW]		停止 [kW]	
	放電	充電	放電	充電
0:00	0	200	0	200
1:00	0	200	0	200
2:00	0	200	0	200
3:00	0	200	0	200
4:00	0	200	0	200
5:00	0	200	0	200
6:00	0	200	0	200
7:00	0	200	0	200
8:00	0	200	0	300
9:00	0	200	0	300
10:00	0	200	0	300
11:00	0	200	0	400
12:00	0	1,940	0	400
13:00	0	1,940	0	400
14:00	0	1,940	0	400
15:00	0	200	0	300
16:00	0	200	0	300
17:00	0	200	0	300
18:00	0	200	0	300
19:00	1,998	0	0	300
20:00	1,998	0	0	200
21:00	1,998	0	0	200
22:00	1,998	0	0	200
23:00	0	200	0	200

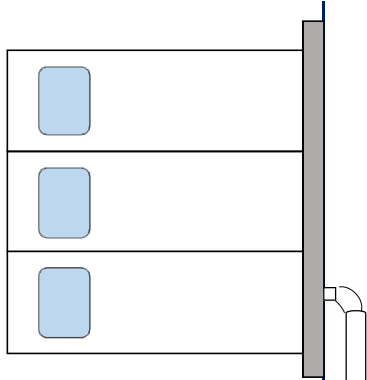


設備配置関連図
ー 主要設備レイアウト図 ー

計量器・VCT・通信端末、受変電設備等の設置場所が判る図面、装柱図、キュービクル等の図面をご記載ください。
(図中に寸法記載も可)



キュービクル



※計量器・VCT・通信端末ならびに受電設備の設置場所がわかるように記載
※計量器・通信端末設備の設置仕様（壁掛け・自立盤）が決まっていれば記載
※通信ケーブルの引込ルートの指定があればわかるように記載

1 / 〇〇〇
(必ずご記載ください)

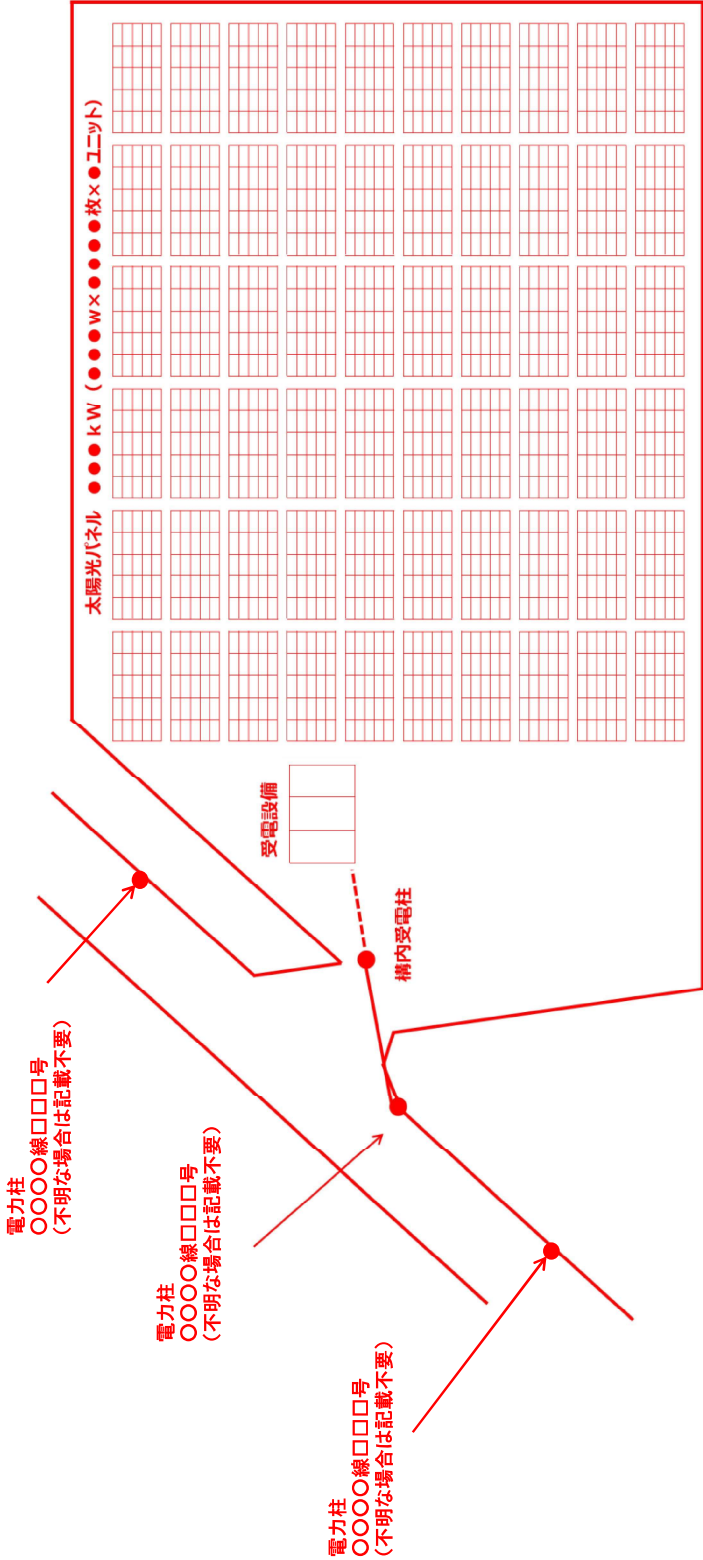
※用紙の大きさは、日本産業規格A3サイズまたはA4サイズとしてください。

年 月 日

設備配置図

一般地平面図

隣接する土地と明確に区別されていることが分かるように記載ください。
※1：発電場所とは、1棟内又は1建物としており、構内とは、さく・へいその他の客観的な区画によって明確に区画された区域をいい、建物とは独立した建物をいいます。
真社構内引込柱、受電設備、太陽光パネル又は蓄電池の設置場所をご記載ください。
※電力引込柱の位置をご記載ください。当該引込柱と隣接電柱2本の計3本をご記載ください。



※計量器・VCT・通信端末ならびに受電設備の設置場所がわかるように記載

※通信ケーブルの引込ルート上の指定があればわかるように記載

1 / 〇〇〇

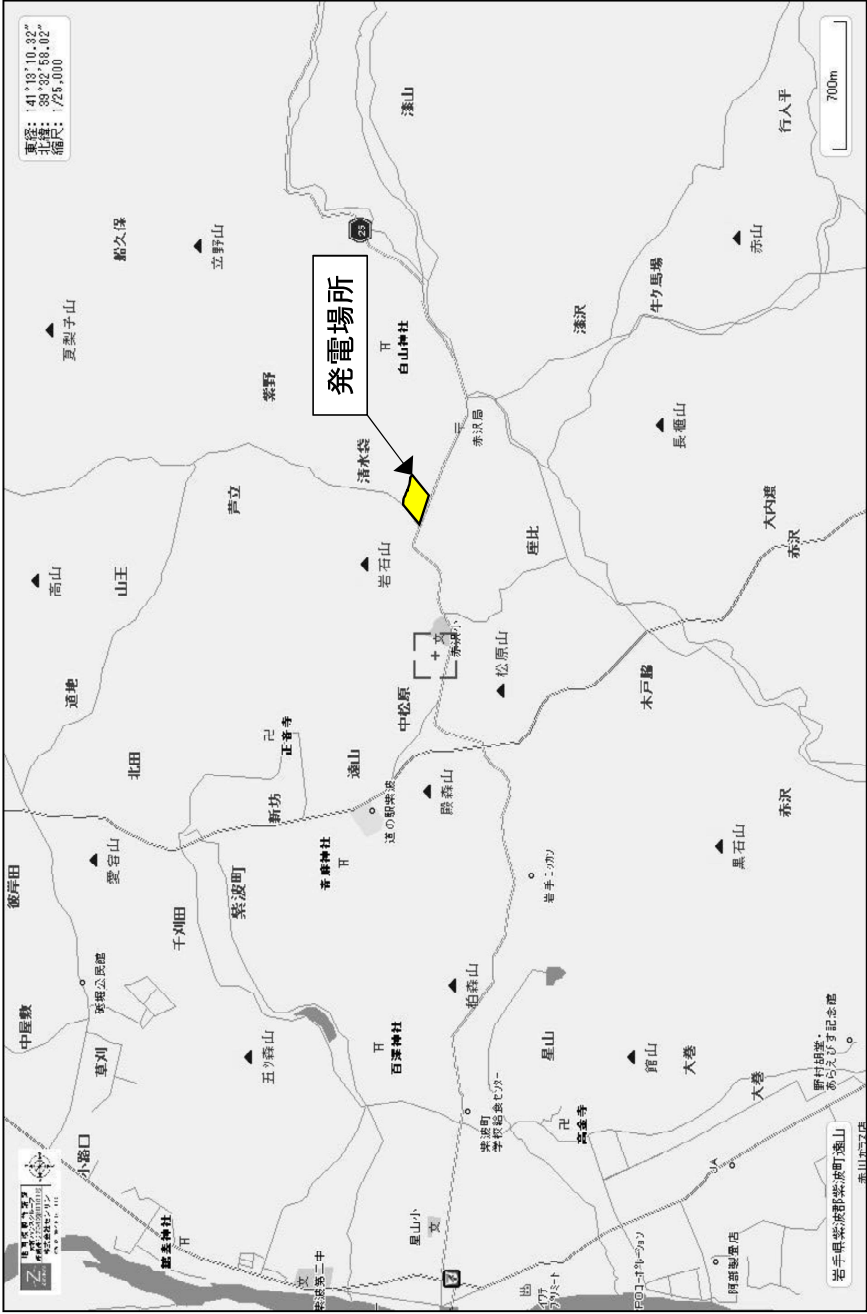
(必ずご記載ください)

縮尺は1/25,000か1/50,000としてください。

※用紙の大きさは、日本産業規格A3サイズまたはA4サイズとしてください。

発電場所周辺地図

周辺地図上に、設備・縮尺をご記載ください。



縮尺	1 / 000
	(必ずご記載ください)

縮尺は1/25,000か1/50,000としてください。
※用紙の大きさは、日本産業規格A3サイズまたはA4サイズとしてください。

発電設備運転開始までの工事工程をご記載ください。
工程表内に、アクセス設備の運用開始、発電設備等の
連系開始日（試運転）を明記してください。

工 事 工 程 表

	〇〇年度		〇〇年度		〇〇年度		〇〇年度		〇〇年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
用地取得										
敷地造成										
機器配置										
調整・試験										
アクセス設備の運用開始										
発電設ば等の連系開始（試運転）										
発電設備等の連系開始（営業運転開始）										

年 月 日

風力発電の出力特性
ー 出力変化速度 ー

太陽光・蓄電池は不要

※用紙の大きさは、日本産業規格A3サイズまたはA4サイズとしてください。

年 月 日

風力発電の出力特性
ー カットイン/カットアウト特性 ー

太陽光・蓄電池は不要

※用紙の大きさは、日本産業規格A3サイズまたはA4サイズとしてください。

年 月 日

風力発電の出力変動対策の方法

太陽光・蓄電池は不要

●● 年 ●● 月 ●● 日

火力等の周波数調整機能の仕様・性能

－出力低下防止機能特性－

太陽光・蓄電池は不要